

資料 2

令和 4 年度

第 1 回森林環境保全基金運営委員会

～令和 4 年度（当初）森林環境税活用事業評価シート～

高知県林業環境政策課

目次

R4-1	公益林保全整備事業(木材増産推進課)	P01
R4-2	みどりの環境整備支援事業(木材増産推進課)	P03
R4-3	造林事業 [環境林整備事業](木材増産推進課)	P05
R4-4	森林・山村多面的機能発揮対策支援事業(林業環境政策課)	P07
R4-5-1	指定管理鳥獣捕獲等事業委託料(鳥獣対策課)	P09
新 R4-5-2	第二種特定鳥獣捕獲推進事業費補助金(鳥獣対策課)	P11
R4-5-3	森林環境保全対策シカ捕獲事業委託料(鳥獣対策課)	P13
R4-6	希少野生植物食害対策事業(自然共生課)	P15
R4-7	環境学習推進事業(生涯学習課)	P17
R4-8	高校生森林環境理解事業(高等学校課)	P19
R4-9	高校生後継者育成事業(高等学校課)	P21
R4-10	山の学習支援事業(林業環境政策課)	P23
R4-11	森林環境情報誌作成等委託料(林業環境政策課)	P25
R4-12	森林環境学習フェア等開催委託料(林業環境政策課)	P27
R4-13	座談会等開催委託料(林業環境政策課)	P29
R4-14	こうち山の日県民参加支援事業(林業環境政策課)	P31
R4-15	こうち山の日推進事業(林業環境政策課)	P33
R4-16	木育指導員活動支援事業(林業環境政策課)	P35
R4-17	運営委員会等開催費(林業環境政策課)	P37
R4-18	林業大学校(短期課程)研修業務等委託料(森づくり推進課)	P39
R4-19	木の香るまちづくり推進事業(木材産業振興課)	P41

令和4年度 森林環境税活用事業事業評価シート（1） (当初・中間・実績)

担当課・係名	木材増産推進課
担当者	本田 昇
内線	3146

R4-1

① 事業名	・細目事業名：緊急間伐総合支援事業費 ・細々目事業名：緊急間伐総合支援事業費補助金 ・当該事業名：公益林保全整備事業
大区分	森林環境の保全を進める事業
小区分	森林整備

③ 主な事業内容	Ⅲ齢級以上の保育間伐による森林整備
----------	-------------------

④	<p>現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景） 事業開始年度 平成24年度</p> <p>森林の多面的な機能を持続的に発揮させるため、未整備森林等における間伐を積極的に実施するとともに、森林所有者の負担の軽減を図るよう取り組んでいる。 平成21年12月に国が「森林・林業再生プラン」を策定し、10年後の木材自給率50%以上を目指すこととされた。このため、造林事業は、平成23年度の制度改正に伴い、間伐の採択要件として施業の集約化及び間伐材を1ha当たり10m3以上搬出することが必須条件となった。 また、森林整備加速化・林業再生事業については、平成23年度補正予算において、東日本大震災の復興に必要な木材を安定供給する体制を構築する目的で、期間の延長が決定されたが、当該事業の目的が造林事業とほぼ同様の条件となり、国庫補助事業の全てが、搬出間伐にシフトした内容となった。 しかし、政権交代や林業関係団体等の強い要望などにより、平成25年度から一定の条件付きではあるが、造林事業で保育間伐単独での採択が可能となった。また、平成26年度からⅧ齢級までの保育間伐が復活された。 さらに、森林の高齢化に対応するため、令和4年度から対象年齢の上限を廃止した。 当事業は、国庫補助事業で採択されない森林所有者のセーフティーネットとして要望も強いが、人工林の年齢構成の変化に応じて、事業規模等については検討を図る必要があると考えている。</p>
⑤	<p>目的とねらい（成果）</p> <p>（本事業の目的） 水源かん養機能等の公益的機能が低い人工林の保育間伐を推進することで、荒廃森林の発生を防止し、森林の持つ公益的機能の効果的な発揮を図る。</p> <p>（意図すべき成果） CO2吸収効果の高い森林を整備して荒廃森林への移行を防止し、将来にわたり健全な森づくりを推進する。</p>
⑥	<p>対象（誰、何を対象とするのか）</p> <p>●森林所有者 ●保安林又は市町村森林整備計画に規定する公益的機能別施業森林であり、かつ、集約化が図れず国庫補助事業の対象とならない、Ⅲ齢級以上の人工林の保育間伐</p>

②	<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業費の推移</th> <th>H30(決算額)</th> <th>R1(決算額)</th> <th>R2(決算額)</th> <th>R3(決算額)</th> <th>R4(予算額)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総事業費（千円）</td> <td>23,844</td> <td>15,673</td> <td>14,185</td> <td>18,920</td> <td>20,000</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">財源内訳</td> <td>森林環境税</td> <td>23,844</td> <td>15,673</td> <td>14,185</td> <td>18,920</td> <td>20,000</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	事業費の推移	H30(決算額)	R1(決算額)	R2(決算額)	R3(決算額)	R4(予算額)	総事業費（千円）	23,844	15,673	14,185	18,920	20,000	財源内訳	森林環境税	23,844	15,673	14,185	18,920	20,000	一般財源						その他					
事業費の推移	H30(決算額)	R1(決算額)	R2(決算額)	R3(決算額)	R4(予算額)																											
総事業費（千円）	23,844	15,673	14,185	18,920	20,000																											
財源内訳	森林環境税	23,844	15,673	14,185	18,920	20,000																										
	一般財源																															
	その他																															

⑦	<p>事業内容（手段）</p> <p>●交付対象の森林 保安林又は市町村森林整備計画に規定する公益的機能別施業森林において集約化が図れず、国庫補助事業の対象とならない森林</p> <p>●交付の条件 Ⅲ齢級以上の保育間伐による森林整備</p> <p>上記の要件を満たしたものについては、森林所有者の負担を軽減することにより、森林整備の推進を図る。 また、間伐の推進について、市町村広報誌への掲載依頼や林業関係機関誌等への掲載とともに、森林環境税のPRを図るため、関係機関等に対してチラシ、パンフレットを配布する。</p> <p>【令和4年度計画量】 実施予定面積 251ha</p> <div style="text-align: center;"> <p>【補助の流れ】</p> <pre> graph TD A[高知県] -- 補助 --> B[市町村] B -- 補助 --> C[森林組合等事業体、森林所有者] </pre> </div>
---	---

令和4年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

(当初・中間・実績)

担当課・係名	木材増産推進課
担当者	本田 昇
内線	3146

R4-1

指標の種類	指標名/算定式	R4目標値	R4中間値	R4実績値	R3実績
⑧ I 活動指標 (アウトプット)	事業実施対象件数 (件)	212			110
	算定式				
	算定式				
II 成果指標 (アウトカム)	森林整備面積 (ha)	251			237
	算定式				
	算定式				
III 効率指標 (事業コスト)	1 ha当たりの事業コスト (間伐) (円)	80,000			80,000
	算定式				

評価の項目	評価の結果	説明
⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明 (担当課記入欄)
⑩ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等 (委員記入欄)
⑪ <input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

令和4年度 森林環境税活用事業事業評価シート（1）

(当初・中間・実績)

担当課・係名	木材増産推進課
担当者	北山 響
内線	4602

R4-2

① 事業名	・細目事業名：みどりの環境整備支援事業 ・細々目事業名：みどりの環境整備支援事業 ・当該事業名：みどりの環境整備支援事業
大区分	森林環境の保全を進める事業
小区分	森林整備

③ 主な事業内容	・人工林（Ⅲ～Ⅹ齢級）の除・間伐による森林整備
----------	-------------------------

④ 現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景）	事業開始年度	平成19年度
<p>森林吸収源対策に向けて除・間伐を推進するため、国の造林補助金に県補助金を上乗せし、森林所有者の負担軽減に取り組んでいる。</p> <p>平成21年12月に国が「森林・林業再生プラン」を策定し、10年後の木材自給率50%以上を目指すこととしたため、国の造林補助金の採択要件に施業の集約化と間伐材を一定量搬出することが付された。従来採択されてきた保育（切捨）間伐は、平成23年度から国の造林補助金の対象外となる森林が出てきたため、当事業が活用され難い状況となっていた。しかし、平成25年度から保育間伐が一定の条件付きで補助対象として追加され、さらには平成26年度から、Ⅶ齢級までの保育間伐が補助対象として復活した。</p> <p>平成26年度からは、国の補助対象の拡大にあわせて、事業発足当時と比較し森林資源の構成齢級が上がってきていることから、県の補助対象齢級の上限の引き上げを行っている。</p> <p>この事業は、平成19年度から事業を開始し、PR活動も実施してきたことから、森林所有者からの要望も強い。</p>		
⑤ 目的とねらい（成果）	<p>（本事業の目的） CO2吸収効果の高い人工林のうち自助努力による森林整備が困難な森林の間伐を促進することで、荒廃森林の発生を防止し、森林の持つ公益的機能が効果的に発揮されるよう森林の整備を図る。</p> <p>（意図すべき成果） CO2吸収源効果の高い森林を整備して荒廃森林への移行を防止し、将来にわたり健全な森づくりを推進する。</p>	
⑥ 対象（誰、何を対象とするのか）	<p>●森林所有者 ●造林事業、人工林（Ⅲ～Ⅹ齢級）の除・間伐（保育）</p>	

事業費の推移	H30(決算額)	R1(決算額)	R2(決算額)	R3(決算額)	R4(予算額)	
総事業費（千円）	18,314	20,412	11,105	10,188	17,880	
財源内訳	森林環境税	18,314	20,412	11,105	10,188	17,880
	一般財源					
	その他					

⑦ 事業内容（手段）

- 交付対象の森林 人工林（Ⅲ～Ⅹ齢級）の除・間伐（保育）による森林整備
- 交付の条件 造林事業の採択を受けた事業

上記の要件を満たしたものについては、造林事業と併用して補助し、森林所有者の負担を軽減することにより、森林整備の推進を図る。
また、森林環境税のPRを図るために、申請者に対してチラシ、パンフレットを配布する。

【令和4年度計画量】 実施予定面積 502ha

— 支援のイメージ —

高知県造林補助事業(国庫補助)

人工造林 下刈 獣害防止

除伐 保育間伐

搬出間伐 路網整備

森林環境税での継ぎ足し支援

みどりの環境整備支援事業

除伐 保育間伐

補助先

森林組合等事業体、森林所有者

令和4年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

（当初・中間・実績）

担当課・係名	木材増産推進課
担当者	北山 響
内線	4602

R4-2

指標の種類	指標名/算定式	R4目標値	R4中間値	R4実績値	R3実績
⑧ I 活動指標 (アウトプット)	事業実施対象件数 (件)	201			123
	算定式				
	算定式				
	算定式				
II 成果指標 (アウトカム)	森林整備面積 (ha)	502			307
	算定式				
	算定式				
	算定式				
III 効率指標 (事業コスト)	1 haあたりの事業コスト (間伐) (円)	(除伐) 37,000			(除伐) 37,000
	算定式				
		(保育間伐A) 41,000 (保育間伐B) 37,000 (保育間伐C) 28,000 (保育間伐D) 27,000、39,000			(保育間伐A) 41,000 (保育間伐B) 37,000 (保育間伐C) 28,000 (保育間伐D) 27,000、39,000

評価の項目	評価の結果	説明
⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等 は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である	
	<input type="radio"/> B. 概ね妥当である	
	<input type="radio"/> C. あまり妥当でない	
	<input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 成果 (意図した成果は上 がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている	
	<input type="radio"/> B. 概ね上がっている	
	<input type="radio"/> C. あまり上がっていない	
	<input type="radio"/> D. 上がっていない	
III 効率性 (コスト面からみた 効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い	
	<input type="radio"/> B. 概ね高い	
	<input type="radio"/> C. あまり高くない	
	<input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明 (担当課記入欄)
⑩ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等 (委員記入欄)
⑪ <input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

令和4年度 森林環境税活用事業事業評価シート（1）

（当初・中間・実績）

担当課・係名	木材増産推進課
担当者	豊永 竜司
内線	4602

R4-3

①	事業名	・細目事業名：造林事業費 ・細々目事業名：造林事業費補助金 ・当該事業名：環境林整備事業
	大区分	森林環境の保全を進める事業
	小区分	森林整備

③	主な事業内容	Ⅲ～Ⅻ年齢級の保育間伐による森林整備
---	--------	--------------------

④	現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景）	事業開始年度	令和2年度
	<p>森林の多面的な機能を持続的に発揮させるため、未整備森林等における間伐を積極的に実施するとともに、森林所有者の負担の軽減を図るよう取り組んでいる。</p> <p>平成21年12月に国が「森林・林業再生プラン」を策定し、10年後の木材自給率50%以上を目指すこととされた。このため、造林事業は、平成23年度の制度改正に伴い、間伐の採択要件として施業の集約化及び間伐材を1ha当たり10m3以上搬出することが必須条件となった。</p> <p>また、森林整備加速化・林業再生事業については、平成23年度補正予算において、東日本大震災の復興に必要な木材を安定供給する体制を構築する目的で、期間の延長が決定されたが、当該事業の目的が造林事業とほぼ同様の条件となり、国庫補助事業の全てが、搬出間伐にシフトした内容となった。</p> <p>しかし、政権交代や林業関係団体等の強い要望などにより、平成25年度から一定の条件付きではあるが、造林事業で保育間伐単独での採択が可能となった。また、平成26年度からⅧ年齢級までの保育間伐が復活された。</p> <p>さらに、平成27年度にⅫ年齢級までの保育間伐が可能となったが、令和元年度（平成30年度繰越）で当該事業が廃止となった。</p> <p>国庫補助事業は廃止となったものの、多くの人工林を抱える本県では、森林の多面的機能を発揮させることが必要な条件不利地等において保育間伐が必要な人工林は依然として存在している。</p>		
	目的とねらい（成果）	<p>（本事業の目的）</p> <p>森林所有者の自助努力によっては適正な整備が期待できない条件不利地等において、市町村、森林所有者、事業主体で協定を締結し、森林の多面的機能を発揮させる森林整備を行う。</p> <p>（意図すべき成果）</p> <p>条件不利地等の荒廃森林への移行を防止し、将来にわたり健全な森づくりを推進する。</p>	
	⑤	<p>対象（誰、何を対象とするのか）</p> <p>●森林組合等</p> <p>●保安林又は市町村森林整備計画に規定する公益的機能別施業森林で国庫補助事業の対象とならない、Ⅲ～ⅩⅡ年齢級の人工林の保育間伐</p>	
	⑥	<p>●保安林又は市町村森林整備計画に規定する公益的機能別施業森林で国庫補助事業の対象とならない、Ⅲ～ⅩⅡ年齢級の人工林の保育間伐</p>	

②	事業費の推移	H30(決算額)	R1(決算額)	R2(決算額)	R3(決算額)	R4(予算額)	
	総事業費（千円）			10,271	25,218	24,720	
	財源内訳	森林環境税			10,271	25,218	24,720
		一般財源					
	その他						

⑦	事業内容（手段）	<p>●交付対象の森林</p> <p>保安林又は市町村森林整備計画に規定する公益的機能別施業森林で国庫補助事業の対象とならない、Ⅲ～ⅩⅡ年齢級の人工林の保育間伐</p> <p>●交付の条件</p> <p>Ⅲ～ⅩⅡ年齢級の保育間伐による森林整備</p> <p>【令和4年度計画量】 実施予定面積 220ha</p>
	【補助の流れ】	<pre> graph TD A[高知県] -- 補助 --> B[森林組合等] B -.-> C[市町村、森林所有者、事業主体で協定を締結] </pre>

令和4年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

(当初・中間・実績)

担当課・係名	木材増産推進課
担当者	豊永 竜司
内線	4602

R4-3

指標の種類	指標名/算定式	R4目標値	R4中間値	R4実績値	R3実績
⑧ I 活動指標 (アウトプット)	事業実施対象件数 (件)	60			72
	算定式				
	算定式				
II 成果指標 (アウトカム)	森林整備面積 (ha)	220			234
	算定式				
	算定式				
III 効率指標 (事業コスト)	1 ha当たりの事業コスト (間伐) (円)	110,000			107,824
	算定式				

評価の項目	評価の結果	説明
⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明 (担当課記入欄)
⑩	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等 (委員記入欄)
⑪	<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続

令和4年度 森林環境税活用事業事業評価シート (1) (当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	岡田 麻美
内線	4586

R4-4

① 事業名	・細目事業名：県民参加の森づくり推進費 ・細々目事業名：森林・山村多面的機能発揮対策支援事業費 ・当該事業名：森林・山村多面的機能発揮対策支援事業費補助金
大区分	森林環境の保全を進める事業
小区分	森林整備

③ 主な事業内容	里山林の保全管理や資源を利用する活動を支援する、国の森林・山村多面的機能発揮対策交付金による地域の取り組みに対し補助する。
----------	---

④ 現況と課題 (これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	平成29年度
<p>○平成25年度に国の森林・山村多面的機能発揮対策交付金が創設され、里山林の保全管理や資源を利用する活動を行う団体に対して支援が行われるようになった。(国費のみで県・市町村の負担必要なし)</p> <p>○平成29年度から新たに5年間の延長が行われ、令和3年度まで継続されることになった。延長に際し、事業の仕組みの見直しが行われ、地方公共団体が一定の金額(国負担額の1/3相当)を負担する案件を優先採択することとなったため、地方負担分のうち1/2を県で補助することとした。(県の負担分は、国負担額の1/6相当となる)</p> <p>○令和4年度から新たに5年間の延長が行われ、令和8年度まで継続されることになった。</p>		

⑤ 目的とねらい (成果)	<p><背景と目的>森林の有する多面的機能を発揮するためには、適切な森林整備や計画的な森林資源の利用が不可欠だが、林業の不振、山村地域の過疎化・高齢化により森林の手入れを行う地域住民が減少し、適切な森林整備等が行われていない箇所が見られる。そのため、地域住民等による森林の手入れ等の協働活動への支援を行うことが必要である。</p>
---------------	---

⑥ 対象 (誰、何を対象とするのか)	地域住民、森林所有者、自伐林家等
--------------------	------------------

② 事業費の推移	H30(決算額)	R1(決算額)	R2(決算額)	R3(決算額)	R4(予算額)	
総事業費 (千円)	14,077	10,395	6,637	6,268	7,192	
財源内訳	森林環境税	14,077	10,395	6,637	6,268	7,192
	一般財源					
	その他					

⑦ 事業内容 (手段)

○事業区分
(1) メインメニュー
【活動推進費】 (初年度のみ)
現地の林況調査、活動計画の実施のための話し合い、研修等。(18,750円以内)
【地域環境保全タイプ】
(里山林保全)
・集落周辺の美しい里山林を維持するための景観保全・整備活動、松林の健全性を維持するための保全活動、風倒木や枯損木の除去、集積、処理。
(1年目 20,000円/ha、2年目 19,000円/ha、3年目 18,000円/ha 以内)
(侵入竹除去・竹林整備)
・高密度に侵入したモウソウチク等の侵入竹の伐採・除去や利用に向けた取組。
(1年目 47,500円/ha、2年目 44,000円/ha、3年目 40,500円/ha 以内)

【森林資源利用タイプ】
里山林に賦存する広葉樹等の森林資源を木質バイオマス、炭焼き、しいたけ原木等及び伝統工芸品原料に活用することを目的とした樹木の伐採、玉伐り、搬出等。
(1年目 20,000円/ha、2年目 19,000円/ha、3年目 18,000円/ha 以内)

(2) サイドメニュー (メインメニューと組み合わせることにより実施が可能。)
【森林機能強化タイプ】
事業の円滑な実施や森林の多面的機能の維持・発揮に必要な路網や歩道の補修・機能強化活動等。(100円/m以内)
【関係人口創出・維持タイプ】
地域外関係者との活動内容の調整、地域外関係者受入のための環境整備、これらの活動に必要な森林調査・見回り等 (8,000円/年以内)

【補助の仕組み】

```

graph TD
    A[国] -- 交付 --> B[公益社団法人高知県森と緑の会 (地域協議会)]
    B -- 補助 --> C[高知県]
    B -- 補助 --> D[市町村]
    B -- 補助 --> E[活動組織]
  
```

令和4年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

(当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	岡田 麻美
内線	4586

R4-4

指標の種類	指標名/算定式	R4目標値	R4中間値	R4実績値	R3実績
⑧ I 活動指標 (アウトプット)	事業実施団体数	50			43
	算定式				
	算定式				
II 成果指標 (アウトカム)	森林整備面積 (ha)	254			230
	算定式				
	算定式				
III 効率指標 (事業コスト)	各森林整備事業1ha当たり事業コスト (円)	28,315			27,250
	算定式				

評価の項目	評価の結果	説明
⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明 (担当課記入欄)
⑩ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等 (委員記入欄)
⑪ <input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

令和4年度 森林環境税活用事業事業評価シート（1）

(当初) 中間・実績

担当課・係名	鳥獣対策課
担当者	本田 歩
内線	9039

R4-5-1

① 事業名	・細目事業名：鳥獣被害対策事業費 ・細々目事業名：捕獲対策事業費 ・当該事業名：指定管理鳥獣捕獲等事業委託料
大区分	森林環境の保全を進める事業
小区分	シカ被害対策

③ 主な事業内容	一般の狩猟者による捕獲が及ばない山岳地の国及び県指定鳥獣保護区などのような捕獲困難地域で、生息密度を高めているシカについて捕獲圧を高める必要があり、認定鳥獣捕獲等事業者等に委託してシカ捕獲を実施する。
----------	--

現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景）	事業開始年度	平成30年度
<p>【現状】 本県では、第二種特定鳥獣管理計画でシカの年間捕獲目標を2.5万頭（令和3年度までは3万頭）と定めて、市町村による有害捕獲や狩猟期の捕獲対策等を実施し、シカ捕獲を推進しているが、近年は、年間捕獲目標に対して2万頭前後にとどまっている。 一般の狩猟者による捕獲が及ばない、山岳地にある国及び県指定鳥獣保護区では、近年、生息数が増えたシカによる自然植生被害が深刻な状況にあり、希少植物の消失や樹木の枯死などによる生物多様性の喪失のほか、裸地化した山肌の崩壊、土砂の流出など、森林機能の低下が問題となっている。</p> <p>【これまでの経過】 平成28年度、29年度に国有林内鳥獣保護区でシカ捕獲を実施した結果から、銃猟に比べて、わな猟が捕獲数が多かった。そのため平成30年度からは猟法を一部箱わなを併用したくくりわなによるわな猟に絞り、30年度は20頭、令和元年度は37頭が得られ、令和2年度からは移設等が容易なくくりわなのみで捕獲を行った。 令和2年度は幡多地区、高岡地区（右記 事業内容（手段）2 実施予定場所参照）ともに10月25日から捕獲を開始し、合計45頭（うち10月に3頭、11月に16頭）を捕獲した。</p> <p>④ 令和3年度は前年と同じ幡多区域および高岡区域に加え八面山鳥獣保護区に隣接する国有林10林班で実施し、幡多区域38頭（うち10林班で5頭）、高岡区域10頭合計で48頭のシカを捕獲した。例年より捕獲時期を早め、幡多区域で10月13日、高岡区域で10月1日から捕獲を開始した結果、10月に17頭、11月に16頭を捕獲できた。 これらのことや、生息状況調査や過去の自動撮影カメラの映像等から、シカの出現頻度の高い時期に捕獲を開始し、積雪の状況を確認しながら可能な限りシカの出現頻度の高い地点での捕獲を行うことが重要であると考えられた。</p> <p>【事業の実施】 令和4年度は、前年に引き続き「幡多区域」、「高岡区域」でくくりわなによるシカ捕獲を実施するとともに、鳥獣保護区に隣接する国有林からのシカの流入が予想される高岡区域では捕獲範囲を広げ、つづら山鳥獣保護区に隣接する国有林4080林班～4082林班においても実施する予定である（実施場所は、第1回指定管理鳥獣捕獲等事業検討会及び事業実施計画（案）の協議を経て正式に決定される）。</p>		
<p>目的とねらい（成果）</p> <p>⑤ 【本事業の目的】 一般の狩猟者による捕獲が及ばない高標高域にある国有林内鳥獣保護区及び隣接する国有林等（捕獲困難地域）における集中的なシカの捕獲圧強化を、認定鳥獣捕獲等事業者等に委託して実施し、くくりわなを主としたわな猟により、シカの生息密度の低下を図る。 【意図すべき効果】 シカの生息密度が5～10頭/km²を超えるとシカによる食害が著しくなると言われており、本事業によるシカの生息密度低下のための捕獲を実行することで、自然植生の被害軽減及び早期回復を図る。</p>		
<p>⑥ 対象（誰、何を対象とするのか） 自然植生</p>		

事業費の推移	H30(決算額)	R1(決算額)	R2(決算額)	R3(決算額)	R4(予算額)	
② 総事業費（千円）	4,115	4,151	11,417	11,381	12,066	
財源内訳	森林環境税	2,058	2,076	5,709	5,691	6,033
	一般財源					
	その他	2,057	2,075	5,708	5,690	6,033

事業内容（手段）	
1 予算	当初：12,066千円（国）6,033千円（森林環境税）6,033千円
2 実施予定場所	<ul style="list-style-type: none"> 幡多区域（八面山鳥獣保護区（四万十市西土佐奥屋内（県指定鳥獣保護区）および隣接する国有林10林班） 高岡区域（つづら山鳥獣保護区（四万十町大正（県指定鳥獣保護））つづら山鳥獣保護区に隣接する国有林4080林班～4082林班（令和4年度から）
3 執行計画	
●7月下旬	第1回指定管理鳥獣捕獲等事業検討会 ・事業内容、捕獲目標数の設定等について説明、検討 ・事業実施計画（案）の説明、検討
●7月下旬～8月上旬	事業実施計画の策定 ・事業実施計画（案）について環境省、森林管理局、関係市町村等との協議 ・事業実施計画の報告（県 → 環境省）
●8月上旬	公募型プロポーザル公告
●8月	シカの生息状況及び自然植生への被害状況等の調査（計画策定業務：国費） ・事業評価のための捕獲前のシカの生息状況等の調査
⑦ ●9月上旬	公募型プロポーザル審査委員会 ・公募対象：認定鳥獣捕獲等事業者
●9月上旬～9月中旬	シカ捕獲事業委託業務委託（委託先：認定鳥獣捕獲等事業者）
●9月（委託契約後）～2月下旬	国有林内（鳥獣保護区等）でわな猟によるシカ捕獲の実施 ・捕獲期間：140日程度を予定
●3月	事業終了報告（委託先 → 県） ・変更契約（捕獲目標数に届かなかった場合等）
●3月上旬	シカ生息状況等の調査（計画策定業務：国費） ・シカ捕獲の事業評価のための生息状況等の調査
●3月下旬	第2回指定管理鳥獣捕獲等事業検討会 ・シカの捕獲数や生息状況等の調査結果を基に、事業効果の評価、検証

令和4年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

（当初・中間・実績）

担当課・係名	鳥獣対策課
担当者	本田 歩
内線	9039

R4-5-1

指標の種類	指標名/算定式	R4目標値	R4中間値	R4実績値	R3実績
⑧ I 活動指標 (アウトプット)	捕獲日数（日）（高岡区域）	140			高岡区域 109日
	算定式				
	捕獲日数（日）（幡多区域）	140			幡多区域 107日
	算定式				
II 成果指標 (アウトカム)	シカ捕獲頭数（頭）（高岡区域）	30			高岡区域 10頭
	算定式 わな猟（主にくりわな）30頭				
	シカ捕獲頭数（頭）（幡多区域）	30			幡多区域 38頭
	算定式 わな猟（主にくりわな）30頭				
III 効率指標 (事業コスト)	シカ1頭の捕獲に要する経費（円）	201,100			237,104
	算定式 事業費÷捕獲頭数				

評価の項目	評価の結果	説明
⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明（担当課記入欄）
⑩ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等（委員記入欄）
⑪ <input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

令和4年度 森林環境税活用事業事業評価シート（1）

（当初・中間・実績）

担当課・係名	鳥獣対策課
担当者	本田 歩
内線	9039

R4-5-2

① 事業名	・細目事業名：鳥獣被害対策事業費 ・細々目事業名：捕獲対策事業費 ・当該事業名：第二種特定鳥獣捕獲推進事業費補助金
大区分	森林環境の保全を進める事業
小区分	シカ被害対策

③ 主な事業内容	シカによる農林業被害や自然植生被害を軽減するため、市町村が当該地域で普及している使い勝手の良いくくりわなを一括購入し、狩猟者に配布（貸与）することにより、シカ捕獲を短期的かつ集中的に推進する。
----------	--

④ 現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景）	事業開始年度	令和4年度
<p>本県では、第二種特定鳥獣管理計画でシカの年間捕獲目標を2.5万頭（令和3年度までは年間3万頭）と定めて、市町村による有害捕獲や狩猟期の捕獲対策等を実施しシカ捕獲を推進しているが、近年は、年間捕獲目標に対して2万頭前後にとどまっている。</p> <p>県内の狩猟によるシカ捕獲数のうち、およそ80%は「くくりわな（わな猟）」による捕獲であるため、くくりわなの設置数の増加によるシカ捕獲を推進し、短期的かつ集中的に年間捕獲目標数に近づける必要がある。</p> <p>平成25～27年度に、新規狩猟者や捕獲を推進する集落に対して実施したくくりわなの配付事業に続き、平成29年度は、県内のわな猟免許所持者（希望者）に対して、地域や捕獲技術に応じた使い勝手の良いくくりわなの購入経費（上限2万円/人）を市町村経由で補助した。しかしながら、わな猟免許所持者個人が、カタログや見積書を手して市町村に申請する方法であったために、この方法・手続きが狩猟者に馴染まなかった。このため、平成30年度から令和元年度は、個人からの申請ではなく、市町村が当該地域で普及している使い勝手の良いくくりわなを一括購入し、狩猟者に配布（貸与）し、その購入経費（上限15基かつ15万円/人）を市町村に補助する方法に改善した。</p>		
<p>目的とねらい（成果）</p> <p>（本事業の目的） 近年、シカの年間捕獲数は、目標2.5万頭（令和3年度までは3万頭）に対して2万頭前後にとどまっている現状にあり、依然として農林業被害や自然植生被害は深刻な状況にある。</p> <p>⑤ シカが多く生息している地域やシカ被害対策を推進しようとする市町村において、より多くのくくりわなを設置し、シカ捕獲を推進する。</p> <p>（意図すべき効果） 令和4年度以降もくくりわなの設置数を増加させて、一挙に捕獲圧を高めることにより、シカの年間捕獲数を捕獲目標2.5万頭に近づけて、シカの生息数の早期の削減を図る。</p>		
<p>対象（誰、何を対象とするのか）</p> <p>⑥ ●市町村 シカ被害対策を推進しようとする市町村が、補助要件を満たす狩猟者にくくりわなを配布（貸与）し、シカ捕獲数を増加させる。</p>		

② 事業費の推移	H30(決算額)	R1(決算額)	R2(決算額)	R3(決算額)	R4(予算額)
総事業費（千円）					20,751
財源内訳	森林環境税				10,375
	一般財源				0
	その他				10,376

⑦ 事業内容（手段）
<p>市町村が、わな猟免許所有者（ただし、事業実施年度において高知県の狩猟者登録を受けている者、又は受けることが確実な者であること）に配布するシカ用くくりわなの購入に要する経費（ただし、送料、梱包料、代金振込手数料等のくくりわな本体以外に係る経費は対象外）を補助する。（定額）</p> <p>【予算】 令和4年度 20,751千円（森林環境税10,375千円 こうちふるさと寄附金基金10,376千円） ＝平均6,917円/基×3,000基 （森林環境税：主に森林被害を及ぼすシカの捕獲を想定）10,375千円 ＝平均6,917円/基×1,500基（端数切り捨て）</p> <p>【執行計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市町村へ事業募集（10月） ○ 補助金交付要綱制定（3月） ○ 内示額決定（4月上旬） <ul style="list-style-type: none"> ・全市町村の要望・意向を取りまとめて内示額を決定する。 ○ 市町村から補助金交付申請（4月中旬～） ○ 補助金交付決定（5月～） <ul style="list-style-type: none"> ・交付申請のあった市町村から随時交付決定を行う。 ○ くくりわなの配布 <ul style="list-style-type: none"> ・市町村は、遅くとも概ね猟期の始まり（11月15日）までに狩猟者への配布を完了する。 ・配布を受けた狩猟者は、有害捕獲や狩猟で配布くくりわなを使用し、シカ捕獲を行う。 ○ 市町村から補助金実績報告（11月～） <ul style="list-style-type: none"> ・配布対象者全員にくくりわなの配布を完了したか、又は対象者全員が狩猟者登録を受けたことが確認できた日を事業完了年月日とする。 ○ 検査及び支払い ○ 捕獲記録の提出（配布年度から3ヶ年間） <ul style="list-style-type: none"> ・配布を受けた狩猟者は、翌年度4月20日までに市町村に提出する。 ・市町村は取りまとめた後、県に提出する。

令和4年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

(当初・中間・実績)

担当課・係名	鳥獣対策課
担当者	本田 歩
内線	9039

R4-5-2

指標の種類	指標名/算定式	R4目標値	R4中間値	R4実績値	R4実績
⑧ I 活動指標 (アウトプット)	配布くくりわな数 (基)	1,500			
	算定式 10,375千円÷6,917円/基				
	算定式				
II 成果指標 (アウトカム)	配布くくりわなによるシカ捕獲頭数 (頭)	1,000			
	算定式 $1,500\text{基} \times 140\text{日} \times 0.007$ (わな捕獲効率) わな稼働日数は年140日程度とする。				
	算定式				
III 効率指標 (事業コスト)	1頭の捕獲に要する経費 (円)	10,375			
	算定式 事業費÷捕獲頭数				
	算定式				

評価の項目	評価の結果	説明
⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明 (担当課記入欄)
⑩	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等 (委員記入欄)
⑪	<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続

令和4年度 森林環境税活用事業事業評価シート（1）

(当初) 中間・実績

担当課・係名	鳥獣対策課
担当者	本田 歩
内線	9039

R4-5-3

①	事業名	・細目事業名：鳥獣被害対策事業費 ・細々目事業名：捕獲対策事業費 ・当該事業名：森林環境保全対策シカ捕獲事業委託料
	大区分	森林環境の保全を進める事業
	小区分	シカ被害対策

③	主な事業内容	狩猟によるシカの捕獲実績が上位である市町村においてシカによる森林及び自然植生被害を軽減するため、狩猟期（11月15日～3月31日）のうち概ね2月末までのシカ捕獲に対して捕獲報償金を支出する。
---	--------	---

現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景）	事業開始年度	令和3年度
<p>【現状】 本県では、市町村による有害捕獲や狩猟期の捕獲対策等を実施し、シカ捕獲を推進しているが、近年は、年間捕獲目標頭数2.5万頭（令和3年度までは3万頭）に対して2万頭前後にとどまっている。</p> <p>「四万十市、四万十町、大豊町、香美市、安芸市」の5市町は、H27～R元年度狩猟期のシカの捕獲頭数が全県のおよそ50%を占めており、県境付近に接しているために隣県からのシカの流入が顕著であり、シカによる天然林及び自然植生被害やスギ・ヒノキ人工林等の林業被害が多くみられる。</p> <p>近年、生息数が増えたシカによる自然植生被害が深刻な状況にあり、希少植物の消失や樹木の枯死などによる生物多様性の喪失のほか、裸地化した山肌の崩壊、土砂の流出など、森林機能の低下が問題となっている。</p> <p>【事業の実施】 シカの狩猟期間（11月15日～3月31日間）のうち、概ね2月末まで（106日間：狩猟期間のおよそ70%）の捕獲に対して、捕獲報償金（8,000円/頭）を狩猟者に支払う。</p>		
<p>目的とねらい（成果） 【本事業の目的】 生息頭数の多い場所でシカを捕獲することにより、シカによる自然植生被害等で低下した森林の持つ公益的機能（水源のかん養、土砂の流出防備など）の早期回復を図り、林業被害を防止する。</p> <p>また、委託により事業を実施することで、早期に報償金の支払が行えることから、早期の捕獲が期待できる。</p>		
<p>対象（誰、何を対象とするのか）</p>		
⑥	自然植生	

事業費の推移		H30(決算額)	R1(決算額)	R2(決算額)	R3(決算額)	R4(予算額)
総事業費（千円）					13,406	20,160
② 財源内訳	森林環境税				13,406	20,160
	一般財源					
	その他					

⑦ 事業内容（手段）	
1 予算	当初：20,160千円（森林環境税）20,160千円
2 執行計画	
●9月～10月下旬	委託契約（5市町） ・委託先：四万十市、四万十町、大豊町、香美市、安芸市 ・契約方法：随意契約
●11月15日	狩猟期開始
●11月～2月	市町村への進捗管理
●2月末	事業対象分終了 ・概ね2月末までの捕獲に対して報償金の支払
●3月	事業終了報告（5市町 → 県） ・変更契約（捕獲目標数に届かなかった場合等）
●3月	委託業務完了 ・完成検査

令和4年度 森林環境税活用事業評価シート (2)

(当初・中間・実績)

担当課・係名	鳥獣対策課
担当者	本田 歩
内線	9039

R4-5-3

指標の種類	指標名/算定式	R4目標値	R4中間値	R4実績値	R3実績
I 活動指標 (アウトプット)	シカ捕獲頭数 (頭)	2400			1,596
	算定式				
II 成果指標 (アウトカム)	狩猟期の5市町の全捕獲頭数に対する割合 (%)	70			集計中
	算定式 狩猟期のうち概ね2月末までの5市町の捕獲頭数 ÷ 狩猟期の5市町の捕獲頭数				
III 効率指標 (事業コスト)	全県に占める5市町の割合 (%)	35			集計中
	算定式 狩猟期のうち概ね2月末までの5市町の捕獲頭数 ÷ 狩猟期の県全域の捕獲頭数				

評価の項目	評価の結果	説明
I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明 (担当課記入欄)
<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等 (委員記入欄)
<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

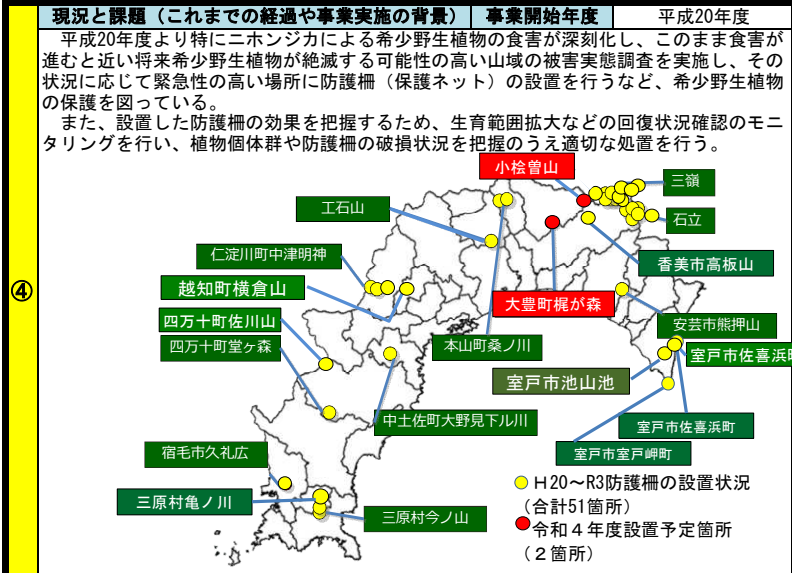
令和4年度 森林環境税活用事業事業評価シート(1) (当初・中間・実績)

担当課・係名	自然共生課(自然保護・公園)
担当者	齊藤
内線	4842

R4-6

① 事業名	・細目事業名： 希少動植物保護対策事業 ・細々目事業名： 希少野生動植物保護対策事業 ・当該事業名： 希少野生植物食害対策事業
大区分	森林環境の保全を進める事業
小区分	シカ被害対策

③ 主な事業内容	1) 希少野生植物の食害状況調査、防護柵設置候補地選定、防護柵設置計画作成 2) 防護柵設置、防護柵の補修 3) 防護柵設置後のモニタリング調査
----------	--



⑤ 目的とねらい(成果)

(事業の目的)
県内の山岳地帯において、ニホンジカによる食害が非常に拡大しており、希少野生植物にも大きな被害が発生しているとの情報が、民間の自然保護団体などから寄せられている。

県では、ニホンジカによる希少野生植物への影響を十分に把握できていないため、被害の実態を調査するとともに緊急にその対策を講じる必要がある。

(意図すべき成果)
全県的な被害状況を把握し、現地調査等を行い急激な食害進行に早急に対応し、希少野生植物の保護に努める。

⑥ 対象(誰、何を対象とするのか)

県内に分布する保全上重要な野生植物

② 事業費の推移	H30(決算額)	R1(決算額)	R2(決算額)	R3(決算額)	R4(予算額)
総事業費(千円)	8,827	8,585	14,902	16,864	12,117
財源内訳	森林環境税	8,827	8,585	14,902	16,864
	一般財源				
	その他				

⑦ 事業内容(手段)

(1) 調査・検討・対策計画
野生植物に関する専門的知識を持つ者による希少野生植物の食害状況等の調査の実施及びその結果、専門的知見により防護柵(保護ネット)設置計画を立てる。
防護柵設置時には現地にて作業指示を行う。
【R4年度計画：調査県内5箇所、柵設置指導ノ2地点】

(2) 対策の実施(防護柵設置)
防護柵(保護ネット)設置計画に基づき、野生植物の専門知識を持つ者の指示のもと、防護柵設置作業を行う。
防護柵(保護ネット)の設置にあたっては、急斜面等への設置等、普通技術者による作業が困難な事態も予測されるため、管轄の森林組合に資材の調達・設置作業を委託する。
【R4年度計画：大豊町梶が森、大豊町小椋曾山 2地点292m】

(3) モニタリングの実施
昨年度までに設置した保護ネットの効果を把握するため、生育範囲拡大などの回復状況確認のモニタリングや現地ヒアリングを行い、植物個体群や防護柵の破損状況を把握のうえ適切な処置を行う。
【R4年度計画：全箇所点検、モニタリング調査16ノ51箇所】

(1年目)
調査・検討・対策計画作成 公益財団法人高知県牧野記念財団に委託
シカの捕獲データや希少野生植物の分布など現地調査を行い、次年度以降の防護柵設置計画を作成

(2年目以降)
対策の実施(防護柵設置) 管轄の森林組合等に委託
設置計画に基づき、防護柵を設置

(3年目以降)
モニタリングの実施 県内コンサルタント会社に委託
植生の回復状況や、現地のモニタリング調査を実施し、防護柵の効果を把握。全箇所
の防護柵の破損状況を点検し軽微な修繕も実施。

※昨年度まで県内51箇所の防護柵設置箇所、65種の希少野生植物の自生地を保護している。

令和4年度 森林環境税活用事業評価シート(2)

(当初・中間・実績)

担当課・係名	自然共生課(自然保護・公園)
担当者	齊藤
内線	4842

R4-6

指標の種類	指標名/算定式	R4目標値	R4中間値	R4実績値	R3実績
⑧ I 活動指標 (アウトプット)	食害拡大地域の現地調査箇所数 (箇所)	5			8
	算定式 調査箇所数				
	防護柵設置(柵延長距離)(m)	292			290.4
	算定式 柵延長距離				
II 成果指標 (アウトカム)	植生回復状況(各調査地点1㎡当りの植被率(%)の推移)(%)	70%			90%
	算定式 植被率(%)が柵内≧柵外の方形区数÷柵内方形区調査(R3以前設置)数(%)				
	防護柵新設により保護される希少植物優先度点数(点)	48			62
	算定式 高知県レッドリスト・環境省レッドリスト・高知県固有評価のランク別配点による点数				
III 効率指標 (事業コスト)	防護柵1m設置に係る経費(円)	12,979			16,670
	算定式 事業費(調査+設置)÷新規柵延長				
	設置済防護柵1箇所当りモニタリング経費(円)	163,274			113,666
	算定式 事業費(モニタリング調査)÷柵の点検箇所(R3以前設置)数				

評価の項目	評価の結果	説明		
⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない			
	II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない		
		III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明(担当課記入欄)
<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	「当初計画」 ・県内のニホンジカの食害被害は依然として深刻な状況が続いており、県内東部、西部から中央部へ拡大傾向にあるため、引き続き事業を実施し、緊急性のある箇所について防護柵設置を行う。 ・豪雨や台風等気象災害による防護柵や林地の被害が増加している。 ・高知県の希少野生植物絶滅を防ぐための有意義な取組であると考えているが、具体的な位置や生育地を公表すれば盗掘される危険もあるため取扱には注意が必要である。 ・令和2年度及び令和3年度で実施した希少野生植物食害防止対策(石鎚山系保護指針策定)委託業務において、石鎚山系における植生状況やニホンジカの生息状況についてモニタリング調査を行い、保全計画の策定に至った。同計画に基づいて引き続き、石鎚山系における植生調査とニホンジカのモニタリング調査を実施する。

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄)
<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

令和4年度 森林環境税活用事業事業評価シート(1) (当初・中間・実績)

担当課・係名	生涯学習課
担当者	山崎 一也
内線	4629

R4-7

① 事業名	・細目事業名：環境学習推進事業費 ・細々目事業名：環境学習推進事業費 ・当該事業名：自然体験型学習事業 森林活用指導者育成事業
大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
小区分	森林環境教育

③ 主な事業内容	自然体験型学習事業に関する事務 森林活用指導者育成事業に関する事務
----------	--------------------------------------

現況と課題(これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	平成23年度
④		<p>平成23年度に開催した「全国生涯学習フォーラム高知大会」における「環境フォーラム」での提言を受け、NPO等の団体や学校、社会教育施設が連携した自然体験活動や環境学習を推進する。そのためには、森林率日本一の本県の自然を生かした自然体験活動や環境教育が行えるよう、指導者研修をはじめとする人材を育成するとともに、育成した人材が活躍することができる機会を創出していくことが重要である。</p> <p>また子どもだけでなく大人も含めみんなが森を大切に、自然と共生する社会の実現に向けて、県民の意識の向上を図ることが必要である。</p> <p>指導者養成研修等については、平成25年度から事業を開始し、平成30年度までで自然体験活動指導者を111名育成したため事業終了とし、令和元年度からは他事業等での人材活用を行っていく。また、令和3年度からは新たに森林活用指導者育成事業を開始する。背景としては学校林を保有する県内小中学校の約3/4程度が学校林の利活用を行って遊休資産となっており、その原因のひとつとして間伐等を行う地域の人材不足があげられている。このことから、学校教育活動や社会教育活動における、森林保全に関する知識・技能や体験活動を支援することのできるスキルをもつ地域人材を育成する。令和3年度は、12名の受講者がいたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、修了者は5名であった。</p> <p>指導者派遣事業については、平成27年度から事業を開始し、PTA行事等に森林に関わる体験活動の指導者を派遣して、子どもだけでなく大人にも山や木と関わる機会の提供をしてきたが、自然体験型学習事業内で指導者を派遣することも令和元年度で事業終了とした。</p> <p>令和元年度からは新たに自然体験型学習事業を開始し、2泊3日以上の森林に関わる体験活動を含む宿泊体験活動を行う小中学校を設置する市町村に対し経費を補助していく。また令和2年度からは学校行事としての宿泊体験活動だけでなく、NPO法人や福祉施設、市町村等が広く参加者を募集し、概ね高校生以下の児童生徒を対象に、1泊2日以上の宿泊体験活動に対しても経費を補助していく。これまでに21の小中学校、12の団体が実施している。</p>

⑤ 目的とねらい(成果)	<p>◇自然体験型学習事業</p> <p>多くの児童生徒に森林に関する体験学習を行う機会を支援し、高知県の森林の魅力や課題を考えると同時に、体験活動・集団活動の充実を図り、子どもの生きる力を育成していく。</p> <p>事業実施にあたり指導者養成研修等を修了した指導者を招聘することを推奨することで活動の場が広がり、指導者自身の指導スキルが向上する。</p> <p>既に体験活動を行っている団体においても、新たに宿泊を伴う活動が提供されることで、活動の幅が広がるとともに、多様なプログラムを提供するため他団体から講師の招聘をすることで、団体間の交流が促進される。</p> <p>◇森林活用指導者育成事業</p> <p>学校林等を活用した除間伐作業補助、動植物の観察、植林、木登りなどの野遊び等の体験活動を支援できる地域人材を12名以上育成する。</p>
--------------	--

⑥ 対象(誰、何を対象とするのか)	<p>○自然体験型学習事業：小学生、中学生、高校生、自然体験活動指導者</p> <p>○森林活用指導者育成事業：青少年教育施設職員、地域学校協働活動参加者、地域おこし協力隊、大学生、教員等研修目的に興味関心のある方</p>
-------------------	---

事業費の推移	H30(決算額)	R1(決算額)	R2(決算額)	R3(決算額)	R4(予算額)	
② 総事業費(千円)	1,648	2,889	2,365	2,062	5,718	
財源内訳	森林環境税	1,648	2,889	2,365	2,062	5,718
	一般財源					
	その他					

⑦ 事業内容(手段)	<p>○自然体験型学習事業</p> <p>①2泊3日以上の森林に関わる体験活動を含む宿泊体験活動を行う小中学校を設置する市町村に対し経費を補助することで、森林への理解と関わりを深め広げていき、森林環境教育を推進していく。</p> <p>各教育事務所、市町村教育委員会、校長会、各小中学校へ事業内容や事業効果の説明を行い、周知及び参加希望を募る。</p> <p>事前事後のアンケート等で、参加児童生徒の生きる力の変容を調査する。</p> <p>②1泊2日以上の森林に関わる体験活動を含む宿泊体験活動を行うNPO団体や青少年育成団体、福祉団体、自然体験活動団体又は市町村が広く参加者を募集し、概ね高校生以下の児童生徒を対象にした事業に経費を補助することで、多くの子どもたちに森林への理解と関わりを深め広げていき、森林環境教育を推進していく。</p> <p>多様なプログラムを参加者に提供するため、自団体だけのプログラム実施だけではなく、他団体や平成30年までに養成した自然体験活動指導者を招聘することを推奨する。このことで、指導者の活躍の場やスキルアップの場を提供する。</p> <p>参加者へ事後の満足度を含む団体任意のアンケート実施と分析を提出させることで、今後の実施内容改善に生かす。</p> <p>○森林活用指導者育成事業</p> <p>学校林をはじめとした地域の森林等、豊かな自然環境を活用し、保幼小中高の児童生徒を対象に体験を中心とした森林環境教育を推進することのできる人材育成研修を行う。</p> <p>青少年教育施設や地域おこし協力隊、市町村教育委員会、各小中学校等へ事業内容や事業効果の説明を行い、周知及び参加希望を募る。</p>
------------	--

令和4年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

(当初・中間・実績)

担当課・係名	生涯学習課 生涯学習企画
担当者	山崎 一也
内線	4629

R4-7

指標の種類	指標名/算定式	R4目標値	R4中間値	R4実績値	R3実績
⑧ I 活動指標 (アウトプット)	自然体験型学習事業参加校数	15			2
	算定式 15校				
	自然体験型学習事業参加団体数	10			3 (4企画)
	算定式 10団体				
II 成果指標 (アウトカム)	自然体験型学習事業参加者数 (学校対象)	225			43
	算定式 15×15				
	自然体験型学習事業参加者数 (民間団体等対象)	300			95
	算定式 30×10				
III 効率指標 (事業コスト)	自然体験型学習事業 参加者一人 あたりのコスト (学校対象)	8,888			6,465
	算定式 予算額(補助金額) ÷参加者数				
	自然体験型学習事業 参加者一人 あたりのコスト (民間団体等対 象)	10,333			14,252
	算定式 予算額(補助金額) ÷参加者数				

評価の項目	評価の結果	説明
⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等 は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 成果 (意図した成果は上 がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
III 効率性 (コスト面からみた 効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明(担当課記入欄)
⑩	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D
	<p>○ 目標設定の考え方 (自然体験型学習事業) 新型コロナウイルス感染症の影響が、今年度も引き続き想定されることから、学校行事及び民間団体等が実施する事業ともに規模を縮小した値で設定。 (森林活用指導者育成事業) 全4回を計画しており、新規の受講者を募集するとともに、昨年度の未修了者の方にも再受講を促す。</p>

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄)
⑪	<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続

令和4年度 森林環境税活用事業事業評価シート（1） (当初・中間・実績)

担当課・係名	高等学校課
担当者	仙頭
内線	3300

R4-8

①	事業名	・細目事業名：森林環境保全事業 ・細々目事業名：高校生森林環境理解事業 ・当該事業名：高校生森林環境理解事業
	大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
	小区分	森林環境教育

③	主な事業内容	河川の水質検査や間伐材利用をとおして森林環境の保全を理解し支援できる人材の育成を図り、将来の森林の保全に具体的に取り組んでいく姿勢を育成する。
---	--------	---

④	現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景）	事業開始年度	平成20年度
	<p>体験を重視した学習活動により、森林の重要性・環境問題について生徒自ら考えることができるようになり、学習内容を発表することで社会性の伸長を目指すキャリア教育にもつながっている。</p> <p>課題としては、活動が多岐に渡るため、時間的余裕が少ない。教科教育との兼ね合いも含め、より効果的な環境教育を推進していく必要がある。</p>		
⑤	目的とねらい（成果）	<p>四万十川流域の貴重な動植物の生態の学習及び水質調査、四万十川源流域で独特の森林植生の学習や、森林の管理が下層植生にどのような影響を与えるかの調査、森林総合研究所、牧野植物園でのフィールドワークをとおして、森・川・海を結ぶ生態系の成り立ちについて学ぶ。</p> <p>学校演習林の積極的な活用を目的とし、学校演習林などから搬出した間伐材の利用をとおして森林環境の保全に対する意識を高める活動や、GNSS端末を活用し、演習林内のデータ収集から適切な森林管理、森林の多面的機能を維持するための学習を展開する。</p>	
	⑥	対象（誰、何を対象とするのか）	県内河川及び山（生徒）

事業費の推移		H30(決算額)	R1(決算額)	R2(決算額)	R3(決算額)	R4(予算額)	
総事業費（千円）		617	702	820	933	1,325	
②	財源内訳	森林環境税	617	702	820	933	1,325
		一般財源					
		その他					

⑦	事業内容（手段）	<p>学校での授業や現地でのフィールドワーク等 学校演習林などから搬出した間伐材利用や、GNSS端末を活用した演習林実習の充実 小学生・保護者対象の木工教室の開催</p> <p>実施予定校 ・四万十高等学校 ・高知北高等学校 ・幡多農業高等学校 ・高知農業高等学校 ・窪川高等学校</p>
---	----------	--

令和4年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

(当初・中間・実績)

担当課・係名	高等学校課
担当者	仙頭
内線	3300

R4-8

指標の種類	指標名/算定式	R4目標値	R4中間値	R4実績値	R3実績
⑧ I 活動指標 (アウトプット)	取組回数(回)	53			63
	算定式				
	算定式				
II 成果指標 (アウトカム)	取組回数(回)	53			63
	算定式				
	算定式				
III 効率指標 (事業コスト)	取り組み1回あたりに要する経費 (円)	25,000			14,795
	算定式				

評価の項目	評価の結果	説明
⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等 は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である	
	<input type="radio"/> B. 概ね妥当である	
	<input type="radio"/> C. あまり妥当でない	
	<input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 成果 (意図した成果は上 がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている	
	<input type="radio"/> B. 概ね上がっている	
	<input type="radio"/> C. あまり上がっていない	
	<input type="radio"/> D. 上がっていない	
III 効率性 (コスト面からみた 効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い	
	<input type="radio"/> B. 概ね高い	
	<input type="radio"/> C. あまり高くない	
	<input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明(担当課記入欄)
⑩	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄)
⑪	<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続

令和4年度 森林環境税活用事業事業評価シート（1） (当初・中間・実績)

担当課・係名	高等学校課
担当者	仙頭
内線	3300

R4-9

①	事業名	・細目事業名：森林環境保全事業 ・細々目事業名：高校生後継者育成事業 ・当該事業名：高校生後継者育成事業
	大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
	小区分	森林環境教育

③	主な事業内容	林業関係学科に学ぶ生徒を対象に、林業に関する資格取得を推進し、将来の林業を担う人材の育成を図る。
---	--------	--

④	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th style="width: 30%;">現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景）</th> <th style="width: 20%;">事業開始年度</th> <th style="width: 50%;">平成20年度</th> </tr> <tr> <td colspan="3"> 林業の現場で幅広く使用される車両系建設機械の種類や構造、操作について理解を深め、始業前点検から作業終了後の保管まで安全かつ確実に実行できる技能を習得させる。課題としては講習により、安全な機械の運転方法を学ぶことができたが、限られた時間の中では実践的な運転技能の習得までは難しい。 </td> </tr> </table>	現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景）	事業開始年度	平成20年度	林業の現場で幅広く使用される車両系建設機械の種類や構造、操作について理解を深め、始業前点検から作業終了後の保管まで安全かつ確実に実行できる技能を習得させる。課題としては講習により、安全な機械の運転方法を学ぶことができたが、限られた時間の中では実践的な運転技能の習得までは難しい。		
	現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景）	事業開始年度	平成20年度				
	林業の現場で幅広く使用される車両系建設機械の種類や構造、操作について理解を深め、始業前点検から作業終了後の保管まで安全かつ確実に実行できる技能を習得させる。課題としては講習により、安全な機械の運転方法を学ぶことができたが、限られた時間の中では実践的な運転技能の習得までは難しい。						
⑤	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>目的とねらい（成果）</th> </tr> <tr> <td> 将来の林業従事者を育て、資格取得後の技術の向上、継続的な環境教育・キャリア教育に結びつける。 </td> </tr> </table>	目的とねらい（成果）	将来の林業従事者を育て、資格取得後の技術の向上、継続的な環境教育・キャリア教育に結びつける。				
目的とねらい（成果）							
将来の林業従事者を育て、資格取得後の技術の向上、継続的な環境教育・キャリア教育に結びつける。							
⑥	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>対象（誰、何を対象とするのか）</th> </tr> <tr> <td>資格取得（生徒）</td> </tr> </table>	対象（誰、何を対象とするのか）	資格取得（生徒）				
対象（誰、何を対象とするのか）							
資格取得（生徒）							

事業費の推移		H30(決算額)	R1(決算額)	R2(決算額)	R3(決算額)	R4(予算額)
総事業費（千円）		335	330	305	417	932
財源内訳	森林環境税	335	330	305	417	932
	一般財源					
	その他					

⑦	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>事業内容（手段）</th> </tr> <tr> <td> 車両系建設機械運転技能講習の受講、可搬式林業機械研修の受講 実施予定校 ・高知農業高等学校 ・幡多農業高等学校 ・橋原高等学校 ・嶺北高等学校 </td> </tr> </table>	事業内容（手段）	車両系建設機械運転技能講習の受講、可搬式林業機械研修の受講 実施予定校 ・高知農業高等学校 ・幡多農業高等学校 ・橋原高等学校 ・嶺北高等学校
事業内容（手段）			
車両系建設機械運転技能講習の受講、可搬式林業機械研修の受講 実施予定校 ・高知農業高等学校 ・幡多農業高等学校 ・橋原高等学校 ・嶺北高等学校			

令和4年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

(当初・中間・実績)

担当課・係名	高等学校課
担当者	仙頭
内線	3300

R4-9

指標の種類	指標名/算定式	R4目標値	R4中間値	R4実績値	R3実績
I 活動指標 (アウトプット)	取組回数(回)	7			4
	算定式				
II 成果指標 (アウトカム)	参加人数(人)	96			43
	算定式				
III 効率指標 (事業コスト)	参加者1人あたりに用する経費	9,708			9690
	算定式				

評価の項目	評価の結果	説明
I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明(担当課記入欄)
<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄)
<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

令和4年度 森林環境税活用事業事業評価シート (1) (当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	西森 萌愛
内線	3216

R4-10

① 事業名	<ul style="list-style-type: none"> 細目事業名：県民参加の森づくり推進費 細々目事業名：山の学習支援事業費 当該事業名：山の学習支援事業費補助金
大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
小区分	森林環境教育

③ 主な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間等において、年間を通して森林環境学習を実施する小中学校等に対して、学校独自の取組みを進めるために補助する。 山の一日先生支援事業に取り組む団体に対して補助する。
----------	--

④	<p>現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景） 事業開始年度 平成16年度</p> <p>○森林率全国一を誇る本県において、昔から培われてきた「木の文化」を身につけ活動できる人材を継続的に養成する必要がある。 ○木や森に関わる人々の技術や伝統を次代に伝えていくことによって、木の文化県構想の定着を図っていく必要がある。 ○近年、子どもたちが自然の中で遊ぶ機会は少なくなってきている。 ○山の学習支援事業を活用する学校等が固定化されていることから、新たに事業を活用する学校を増やす必要がある。</p>
---	---

⑤	<p>目的とねらい（成果）</p> <p><目的> 森林県である本県の子どもたちに「木の文化」が身に付くような学習への支援を行うことによって、子どもたちが森林への理解や関心を深め広げ、将来にわたって山や森林を守り、大切に思う心を育む。</p>
---	--

⑥	<p>対象（誰、何を対象とするのか）</p> <p>県民（小中学生等）</p>
---	--

事業費の推移	H30(決算額)	R1(決算額)	R2(決算額)	R3(決算額)	R4(予算額)	
総事業費（千円）	13,665	16,805	17,535	19,413	24,963	
財源内訳	森林環境税	13,665	16,805	17,535	19,413	24,963
	一般財源					
	その他					

⑦

事業内容（手段）

○事業区分
 (1) 「総合的な学習の時間」等において年間を通して森林環境学習を実施する事業
 (2) 山の一日先生を派遣する事業

【補助の仕組み】

```

    graph TD
      A[高知県] -- 補助 --> B[公益社団法人高知県森と緑の会]
      B -- 補助 --> C[市町村、市町村教育委員会]
      B -- 補助 --> D[個人・団体(山の一日先生)]
      C -- 補助or 令達 --> E[小中学校]
      D --> F[出前授業実施]
      F --> G[受け入れ団体]
    
```

令和4年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

(当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	西森 萌愛
内線	3216

R4-10

指標の種類	指標名/算定式	R4目標値	R4中間値	R4実績値	R3実績
I 活動指標 (アウトプット)	学校数(校)	82			64
	算定式				
	事業回数(回)	100			100
	算定式				
II 成果指標 (アウトカム)	県民参加人数(人)	12,000			10,234
	算定式				
III 効率指標 (事業コスト)	参加した県民一人当たりの経費(円)	2,080			1,572
	算定式				

評価の項目	評価の結果	説明
I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明(担当課記入欄)
<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄)
<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

令和4年度 森林環境税活用事業事業評価シート（1）

（当初・中間・実績）

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	西森 萌愛
内線	3216

R4-11

①	事業名	・細目事業名：県民参加の森づくり推進費 ・細々目事業名：森づくりへの理解と参加を促す広報事業費 ・当該事業名：森林環境情報誌作成等委託料
	大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
	小区分	県民の主体的な活動

③	主な事業内容	森林環境税やこうち山の日に関する取組など、森林や山に関する情報誌の作成等を行う。
---	--------	--

④	現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景）	事業開始年度	平成19年度
	<p>○森林環境税を利用して、県民参加の森づくりを推進してきているが、若い年齢層や子育て年齢層では森や山への理解や関心があまり高くない状況にある。</p> <p>○紙面のみでは小中学生や若い年齢層の関心を得られず、ホームページやSNS等を通じた広報も必要である</p>		

⑤	目的とねらい（成果）	<p><目的></p> <p>○森林環境税を活用した事業の取組や、森林や山に関する情報を分かりやすく広く伝えることによって、県土の84%を占める森林の公益的機能やその大切さを県民各層が認識し、森林環境税への理解を深めてもらうことを目的に平成29年度まで「mamori」の発行を行った。</p> <p>○平成30年度からは、タイトルを「もりりん」として、森林環境税を活用した取組だけでなく、県内での様々な取組を紹介するとともに、動画など誌面以外のコンテンツとも連携したPRを行うことにより、森林の持つ多面的な機能をターゲットとする若い世代に、より理解を促すことを狙いとしたリニューアルを行った。</p>
---	------------	--

⑥	対象（誰、何を対象とするのか）	県民（特に①20～30代②小中学校の全児童・生徒）
	<理由>	①森林環境税のアンケートで認知度が特に低かったことに加え、住宅購入などで木材利用が期待できる世代であるため

②	事業費の推移	H30(決算額)	R1(決算額)	R2(決算額)	R3(決算額)	R4(予算額)
	総事業費（千円）	4,264	5,994	8,293	7,317	7,321
	財源内訳	森林環境税	4,264	5,994	8,293	7,317
		一般財源				
		その他				

⑦	事業内容（手段）	<p>【森林環境情報誌作成等実施委託】</p> <p>1 企画提案書を業者に提出させ選定（プロポーザル方式）し、委託契約を締結</p> <p>2 年度内に発行予定。発行予定部数 各8万3千部×2回</p> <p>3 県内を中心に各市町村、量販店、道の駅等と県内全小中学校、3歳以上の全保育・幼稚園児の各家庭に教育委員会を通じて配布</p> <p>4 3と並行してインターネットを活用した広報も行う</p> <p>【令和4年度の予定】</p> <p>・発行：8号、9号 各8万3千部</p> <p>・配布先：○県内の量販店、市町村役場、道の駅、県内全小中学校の各家庭など約2,400箇所</p> <p>○こうち山の日推進事業、森林環境学習フェアなど森林に関するイベント など</p>
	（過去の情報誌の掲載内容）	<p>平成30年度 山に触れ、楽しむ</p> <p>令和元年度 生物多様性と水源かん養</p> <p>雨による土砂流出や山地災害の防止</p> <p>令和2年度 学校林と施設紹介、森林環境税</p> <p>山の一日先生と緑の募金</p> <p>令和3年度 自然界との共生</p> <p>林業大学校紹介と森に関わる仕事</p>

令和4年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

(当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	西森 萌愛
内線	3216

R4-11

指標の種類	指標名/算定式	R4目標値	R4中間値	R4実績値	R3実績
I 活動指標 (アウトプット)	情報誌発行部数(部)	166,000			166,000
	算定式 83,000部×2回				
II 成果指標 (アウトカム)	情報誌発行回数(回)	2			2
	算定式				
III 効率指標 (事業コスト)	読者アンケート回答数(件)	1,000			711
	算定式 年間発行回数×500件				
III 効率指標 (事業コスト)	発行一回当たりの経費(円)	3,660,500			3,658,435
	算定式 契約額÷年間発行回数				
III 効率指標 (事業コスト)	一部当たりの経費(円)	44			44
	算定式 契約額÷年間発行部数				

評価の項目	評価の結果	説明
I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明(担当課記入欄)
<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄)
<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

令和4年度 森林環境税活用事業評価シート（1）

（当初・中間・実績）

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	上野 泰宏
内線	4586

R4-12

①	事業名	・細目事業名：県民参加の森づくり推進費 ・細々目事業名：森づくりへの理解と参加を促す広報事業費 ・当該事業名：森林環境学習フェア等開催委託料
	大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
	小区分	県民の主体的な活動

③	主な事業内容	森林環境学習に関するフェアや森林環境保全バスツアーを開催し、広く県民に森林環境保全の意識を理解し、関心を深めていただくための情報発信等を行う。
---	--------	---

④	現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景）	事業開始年度	平成30年度
	・森林環境税の創設から15年が経過したが、森林環境保全の理解が、日々森林への思いをはせることが少ない特に都市部の方々にまで浸透しているとは言い難い。 ・平成28年度に実施した課税期間の延長に係る県民世論調査や企業アンケートは5年前より課税期間の延長に対する賛成（どちらかと言えば賛成の意見も含める）の意見が下がっていた。 ・県民世論調査等においても「県民に知られるような情報発信の仕方をもっと検討すべき」との意見もあり、従来の情報発信の方法を見直す必要がある。		

⑤	目的とねらい（成果）	・3年連続累計約2万人を集客したイベントであった「木造住宅フェア（もくもくランド）」を全面リニューアルし、林業・森林環境学習に関するフェアを開催。 ・フェアでは木材利用の普及啓発と併せて、森林環境学習を行う機会を新たに加えるなど内容を見直し、今まで浸透できていない方々も含め、幅広い県民に森林が果たす公益的機能の重要性を理解していただくことを目的として実施する。 ・それに加え、林業や山側の実態を知り、理解を深めていただくため、林業関係のブースの出展を計画するとともに、ボランティア活動をはじめとする森林保全や林業に関する様々な事業や取組への継続的な関わりをきっかけとしていただくために、それらの活動を会場内で紹介する。 ・また、高知市内で実施する学習フェアと、実際に森林や林業の現場を訪れ、見て触れて体験する森林保全体験バスツアーを一体的に開催することにより、単に楽しむだけでなく、森林や林業の状況を含めて関心を持ち、理解していただく機会としたい。
	対象（誰、何を対象とするのか）	県民

⑥	対象（誰、何を対象とするのか）	県民
---	-----------------	----

②	事業費の推移	H30(決算額)	R1(決算額)	R2(決算額)	R3(決算額)	R4(予算額)	
	総事業費（千円）	8,917	9,120	1,148	9,462	12,641	
	財源内訳	森林環境税	8,917	9,120	1,148	9,462	12,641
		一般財源					
その他							

⑦	事業内容（手段）	1 委託先の決定：企画提案書を業者に提出させ選定（プロポーザル方式）し、委託契約を締結し、決定。 2 開催内容の決定：森林環境学習フェアは、県、民間団体などが参加するフェア実行委員会を月1回程度開催し、県民に森林が果たす公益的機能の重要性を伝えるための開催内容を検討し、決定。 3 開催日程・内容 (1) 森林環境学習フェア ○開催日程・場所 ・10月22日（土）、23日（日）の2日間、高知市中央公園で開催 ○会場全体 ・会場内のエリアごとにテーマ性を持たせ、学べる内容がわかるような会場構成とする。 ・林業関係者に参加いただき、森の仕事について紹介することで、林業への理解を深める催しを検討。 ○森林環境学習ブース（6～12小間） ・来場者が森林環境を学べる場として、森林や環境に係るワークショップや木工体験を行うブースを設置予定。 ・森林の果たす役割について紹介するパネル展示も行う。 ○ステージイベント ・例年同様にステージイベントの実施を検討。 (2) 森林保全体験バスツアー ○森林や林業現場を実際に見て触れて体験していただく、バスツアーを実施。 ○11月、3月頃の年2回、定員は各50名として実施予定。 ※森林環境学習フェアは、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、入場制限を行いながら実施する予定、また、会場に来場しなくても楽しみながら学べる仕掛けを検討している。
---	----------	--

令和4年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

① 当初・中間・実績

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	上野 泰宏
内線	4586

R4-12

指標の種類	指標名/算定式	R4目標値	R4中間値	R4実績値	R3実績値
⑧ I 活動指標 (アウトプット)	フェア開催回数	1			1
	算定式				
	バスツアー開催回数	2			0
	算定式				
II 成果指標 (アウトカム)	学習フェア来場者数(人)	22,000			5,000
	算定式				
	バスツアー参加者数(人)	100			0
	算定式				
III 効率指標 (事業コスト)	学習フェア来場者一人あたりに要する経費(円)	410			1,797
	算定式				

評価の項目	評価の結果	説明
⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明(担当課記入欄)
<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄)
<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

令和4年度 森林環境税活用事業評価シート（1）

（当初）中間・実績

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	上野 泰宏
内線	4586

R4-13

①	事業名	・細目事業名：県民参加の森づくり推進費 ・細々目事業名：森づくりへの理解と参加を促す広報事業費 ・当該事業名：座談会等開催委託料
	大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
	小区分	県民の主体的な活動

事業費の推移		H30(決算額)	R1(決算額)	R2(決算額)	R3(決算額)	R4(予算額)
総事業費(千円)		—	—	—	62	(8679)
② 財源内訳	森林環境税	—	—	—	62	(8679)
	一般財源					
	その他					

③	主な事業内容	1) 企業アンケートの実施・集計 2) 広報・PR活動
---	--------	--------------------------------

⑦	事業内容(手段)	<p>1) 企業アンケートの実施・集計 森林環境税を負担している県内法人を対象に、森林環境税のあり方についての考え方を聞くためのアンケートを実施し、今後の森林環境税の在り方や用途についての取りまとめの際の参考とする。 回収率の向上のため、WEBによる回答方法も検討する。</p> <p>2) 広報・PR活動 メディア等を活用して森林環境税について、広く広報を行うことを検討中。</p>
---	----------	--

④	現況と課題(これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	令和3年度限り(繰越)
	<p>令和4年度は、森林環境税の課税期間満了の年であり、「今後の森林環境税のあり方」について、納税者である企業から意見等を聞く必要がある。 ※県民からの意見については、県民世論調査(県広報広聴課)の設問として実施予定</p>		

⑤	目的とねらい(成果)	企業アンケートの実施により、県内法人の森林環境税に関する意見を収集し、「今後の森林環境税のあり方」の参考とする。
---	------------	--

⑥	対象(誰、何を対象とするのか)	企業
---	-----------------	----

令和4年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

（当初・中間・実績）

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	上野 泰宏
内線	4586

R4-13

指標の種類	指標名/算定式	R4目標値	R4中間値	R4実績値	R3実績値
⑧ I 活動指標 (アウトプット)	企業アンケートの実施	2000			-
	算定式				
	算定式				-
	算定式				
II 成果指標 (アウトカム)	企業アンケート回収率 (%)	35			-
	算定式				
	企業アンケート回収数	700			-
	算定式				
III 効率指標 (事業コスト)	企業アンケート回答1件あたりに要した経費 (円)	3,587			-
	算定式				
	算定式				
	算定式				

評価の項目	評価の結果	説明
⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明 (担当課記入欄)
⑩	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等 (委員記入欄)
⑪	<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続

令和4年度 森林環境税活用事業評価シート（1）

（当初）中間・実績

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	上野 泰宏
内線	4856

R4-14

① 事業名	・細目事業名：県民参加の森づくり推進費 ・細々目事業名：こうち山の日推進事業費 ・当該事業名：こうち山の日県民参加支援事業委託料 ：ホームページ保守管理委託料
大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
小区分	県民の主体的な活動

③ 主な事業内容	1) 幅広く県民からの参加を募る森林保全ボランティア活動及び森林保全ボランティア活動紹介パネル展の開催 2) 公式ホームページの構築
----------	---

現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景）	事業開始年度	平成19年度
④		<ul style="list-style-type: none"> 「こうち山の日」の活動をはじめとする「県民参加の森づくり」を推進するため、県内の森林保全ボランティア団体の統轄機関である「こうち山の日ボランティアネットワーク」を事業実施団体に定め、会員団体が県内全域で森林保全活動を積極的に展開しているが、会員の高齢化などにより活動が停滞状況にある。 森林保全ボランティア活動に対する広報が十分ではないことから、近年参加者が減少していることもあり、平成27年度に公式ホームページ「森・ヒト・こうち 応援ネット」を開設し、森林ボランティア活動への広報を積極的に実施している。 また、平成29年度には甬喜ヶ峰森林公園で森林整備を体験できるバスツアーを開催し、参加者111人を森林保全活動への参加に誘導することができ、以降毎年度バスツアーを実施し、多くの方に参加をいただいていたが、バスツアーは令和3年度から森林環境学習フェアと一体的に実施することにした。※R3のバスツアーはコロナ禍により中止。

⑤ 目的とねらい（成果）	<ul style="list-style-type: none"> 幅広く県民からの参加を募る森林保全ボランティア活動などの取り組みを通じて、幅広く県民に森林への理解と関心を深めてもらうことを目的とする。 「森・ヒト・こうち 応援ネット」に県民参加の森づくり活動に関する情報を一元的に掲載し、イベント検索機能を付加することで利用者の利便性を高めるとともに、森林環境保全活動ツアーを開催することで森林保全ボランティア活動への参加者を増やす。
--------------	--

⑥ 対象（誰、何を対象とするのか）	県民
-------------------	----

事業費の推移	H30(決算額)	R1(決算額)	R2(決算額)	R3(決算額)	R4(予算額)	
② 総事業費（千円）	3,041	4,175	2,713	2,704	3,191	
財源内訳	森林環境税	3,041	4,175	2,713	2,704	3,191
	一般財源					
	その他					

⑦ 事業内容（手段）	<p>1) 森林保全ボランティア活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ①森林保全ボランティア活動の企画・運営 県内の森林保全ボランティア団体が幅広く県民からの参加を募り森林保全ボランティア活動を実施 ②ホームページにより活動内容を広報 「森・ヒト・こうち 応援ネット」により①の開催案内などの森林保全ボランティア活動のPRを実施 〈こうち山の日県民参加支援事業委託料〉により森林保全ボランティア活動を支援など ・賃金やボランティア保険など、①に係る経費の助成 ・②の運営 ③森林保全ボランティア活動を紹介するパネル展の開催 ・県民に森林保全ボランティア活動を知ってもらい、より多くの県民にボランティア活動に参加してもらうため、オーテピア高知図書館の展示スペースで1ヶ月程度、森林保全ボランティアの活動の様子を写した写真パネルを展示 ・森林環境学習フェアでも同様の展示を行い、県民に森林保全ボランティア活動のPRを行う予定。 ※ 委託先：こうち山の日ボランティアネットワーク 事業費（R4 予算）：2,891千円 <p>2) 公式ホームページの保守 〈インターネットホームページ保守管理委託業務〉により「森・ヒト・こうち 応援ネット」の保守管理の実施 ※ 委託先：株式会社アークデザイン研究所 事業費（R4 予算）：300千円</p>
------------	--

令和4年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

④(当初)中間・実績

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	上野 泰宏
内線	4586

R4-14

指標の種類	指標名/算定式	R4目標値	R4中間値	R4実績値	R3実績値
⑧ I 活動指標 (アウトプット)	森林保全に関する活動回数（回）	43			40
	算定式				
	算定式				
II 成果指標 (アウトカム)	県民参加人数（人）	470			595
	算定式				
	算定式				
III 効率指標 (事業コスト)	当事業に参加した県民一人当たり に要する経費（円）	6,789			4,542
	算定式 予算額(2,065千円)÷指標値				
	算定式				

評価の項目	評価の結果	説明
⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等 は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 成果 (意図した成果は上 がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
III 効率性 (コスト面からみた 効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明(担当課記入欄)
⑩	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄)
⑪	<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続

令和4年度 森林環境税活用事業事業評価シート（1） (当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	岡田 麻美
内線	4586

R4-15

① 事業名	・細目事業名：県民参加の森づくり推進費 ・細々目事業名：こうち山の日推進事業費 ・当該事業名：こうち山の日推進事業費補助金
大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
小区分	県民の主体的な活動

事業費の推移	H30(決算額)	R1(決算額)	R2(決算額)	R3(決算額)	R4(予算額)	
総事業費(千円)	10,568	7,229	5,484	7,044	7,881	
財源内訳	森林環境税	10,568	7,229	5,484	7,044	7,881
	一般財源					
	その他					

③ 主な事業内容	「こうち山の日」に関する普及啓発事業に取り組む団体に対して補助する。
----------	------------------------------------

事業内容(手段)

○事業区分
【森づくり】 ①間伐 ②環境整備 ③植栽 ④竹林整備
【木使い】 ⑤木工 ⑥木材普及
【森林体験と教育】 ⑦森林体験 ⑧森林環境教育

【補助の仕組み】

```

    graph TD
      A[高知県] -- 補助 --> B[公益社団法人高知県森と緑の会]
      B -- 補助 --> C[団体]
      B -- 補助 --> D[市町村]
    
```

④ ⑤	<p>現況と課題(これまでの経過や事業実施の背景) 事業開始年度 平成15年度</p> <p>○人と木の共生を基本理念とした「木の文化県構想」の一環として、県民一人ひとりに森林や森を守る活動の重要性に対する理解と関心を深めてもらうことを制定趣旨として「こうち山の日(11月11日)」が制定された。</p> <p>○「こうち山の日」に対する県民の認知度は必ずしも高くないため、継続的に普及啓発をしていく必要がある。</p>
⑥	<p>目的とねらい(成果)</p> <p><目的> 「こうち山の日」制定趣旨に基づく取組を支援し県内各地で森林に対する普及啓発を行うことによって、県民の山への理解と関心を深める。また、県民一人ひとりが森林を守る活動に参加し、自ら行動することによって山を守り次代へと引き継いでいくことを推進する。</p>
	<p>対象(誰、何を対象とするのか)</p> <p>県民</p>

令和4年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

(当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	岡田 麻美
内線	4586

R4-15

指標の種類	指標名/算定式	R4目標値	R4中間値	R4実績値	R3実績
⑧ I 活動指標 (アウトプット)	事業実施団体数(団体)	21			20
	算定式				
	算定式				
	算定式				
II 成果指標 (アウトカム)	県民参加人数(人)	4,000			2,455
	算定式				
	算定式				
	算定式				
III 効率指標 (事業コスト)	参加した県民一人当たりの経費(円)	1,970			2,869
	算定式				
	算定式				
	算定式				

評価の項目	評価の結果	説明
⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である	
	<input type="radio"/> B. 概ね妥当である	
	<input type="radio"/> C. あまり妥当でない	
	<input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている	
	<input type="radio"/> B. 概ね上がっている	
	<input type="radio"/> C. あまり上がっていない	
	<input type="radio"/> D. 上がっていない	
III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い	
	<input type="radio"/> B. 概ね高い	
	<input type="radio"/> C. あまり高くない	
	<input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明(担当課記入欄)
⑩	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄)
⑪	<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続

令和4年度 森林環境税活用事業評価シート①

(当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	牛嶋 祥子
内線	3216

R4-16

①	事業名	・細目事業名：県民参加の森づくり推進費 ・細々目事業名：木育指導員活動支援事業費 ・当該事業名：木育指導員活動支援事業費補助金
	大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
	小区分	県民の主体的な活動

事業費の推移	H30(決算額)	R1(決算額)	R2(決算額)	R3(決算額)	R4(予算額)	
総事業費(千円)	—	—	602	1,131	1,932	
財源内訳	森林環境税	—	—	602	1,131	1,932
	一般財源					
	その他					

③	主な事業内容	木育指導員を養成し、支援することを目的として実施する事業に対して補助金を交付する
---	--------	--

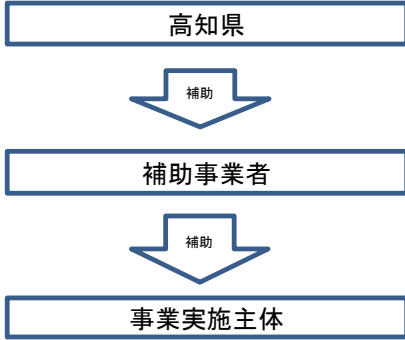
事業内容(手段)

- ・高知県から、一度補助事業者に補助金を交付し、補助事業者から事業実施主体に補助金を交付する間接補助により事業を実施。
- ・(1)指導者の養成研修、(2)指導者の派遣、(3)派遣先との連絡調整に要する経費について、事業実施主体に対して補助金を交付する。
- ・事業実施主体は、市町村・市町村教育委員会・県内に事務局等を置く法人、任意団体とする。
- ・補助率は定額とし、補助限度額は30万円とする。
- ・指導者の養成研修を行わない場合でも、当事業の活用にあたっては、指導者の養成等の観点も考慮した計画の作成をするよう要綱で規定。

④	現況と課題(これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	令和2年度
	<p>○県内では、一部の市町村が先進的に木育の普及に取り組み始め、県でも木材産業振興課が森林環境税を活用し、木製玩具等の配布を行う木育の取組への補助事業を実施しているが、木育の普及啓発は全県的に行われている状況ではなく、その意義も広く県民に理解されているという状況にはない。</p> <p>○また、県内で積極的に活動の場を掘り起こして木育の活動を行うことができる担い手も非常に少なくなっている。</p>		

⑦

【補助の仕組み】



⑤	目的とねらい(成果)	○現在、木育の活動を行っている方の活動を支援するとともに、新たな人材や活動の場を発掘するため、木育指導員の養成講座など、指導者の育成を目的とする事業に支援を行う。
	対象(誰、何を対象とするのか)	県民

⑥	対象(誰、何を対象とするのか)	県民
---	-----------------	----

令和4年度 森林環境税活用事業評価シート②

(当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	牛嶋 祥子
内線	3216

R4-16

指標の種類	指標名/算定式	R4目標値	R4中間値	R4実績値	R3実績値
⑧ I 活動指標 (アウトプット)	事業実施回数(回)	20			16
	算定式				
	算定式				
II 成果指標 (アウトカム)	参加人数(人)	350			527
	算定式				
	算定式				
III 効率指標 (事業コスト)	予算額(1,932千円)÷参加人数(円)	5,520			3,973
	算定式				

評価の項目	評価の結果	説明
⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である	
	<input type="radio"/> B. 概ね妥当である	
	<input type="radio"/> C. あまり妥当でない	
	<input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている	
	<input type="radio"/> B. 概ね上がっている	
	<input type="radio"/> C. あまり上がっていない	
	<input type="radio"/> D. 上がっていない	
III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い	
	<input type="radio"/> B. 概ね高い	
	<input type="radio"/> C. あまり高くない	
	<input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明(担当課記入欄)
⑩ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄)
⑪ <input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

令和4年度 森林環境税活用事業評価シート（1）

① 当初・中間・実績

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	上野 泰宏
内線	4586

R4-17

① 事業名	・細目事業名：県民参加の森づくり推進費 ・細々目事業名：運営委員会等開催費 ・当該事業名：事務費
大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
小区分	県民の主体的な活動

事業費の推移	H30(決算額)	R1(決算額)	R2(決算額)	R3(決算額)	R4(予算額)	
総事業費(千円)	545	314	361	236	1,376	
② 財源内訳	森林環境税	545	314	361	236	1,376
	一般財源					
	その他					

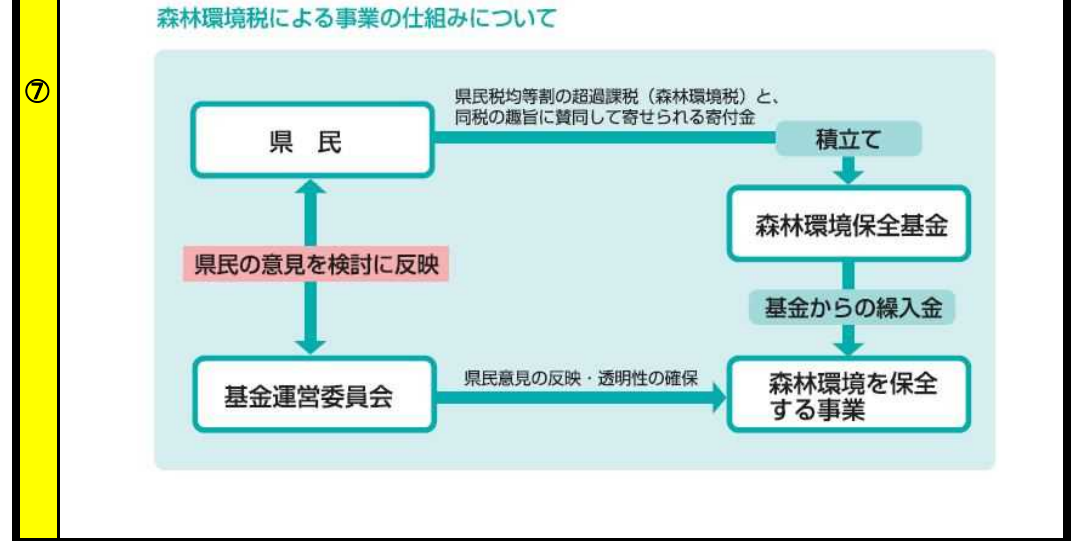
③ 主な事業内容	森林環境保全基金の運営を適正に行うため、基金運営委員会の開催等を行う。
----------	-------------------------------------

④ 事業内容（手段）
森林環境保全基金の運営を適正に行うため、基金運営委員会の開催等を行う。

④ 現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景）	事業開始年度	平成15年度
--------------------------	--------	--------

- 【主な取り組み】
- 基金運営委員会の開催 年3回（R3は、座談会やシンポジウムの状況により、年5回程度）
 - 現地視察 年1回
 - 事業評価の実施
 - 各年度の当初、中間、実績のタイミングで委員会に状況を報告
 - 報告内容から委員が事業評価を実施
 - 継続実施や改善・拡充といった事業の見直し等、評価の結果を事業の運営に反映

⑤ 目的とねらい（成果）	森林環境保全基金の運営を適正に行う。
--------------	--------------------



⑥ 対象（誰、何を対象とするのか）	県民
-------------------	----

令和4年度 森林環境税活用事業評価シート(2)

④(当初)中間・実績

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	上野 泰宏
内線	4586

R4-17

指標の種類	指標名/算定式	R4目標値	R4中間値	R4実績値	R3実績値
⑧ I 活動指標 (アウトプット)	委員会等開催回数(回)	4			2
	算定式				
	算定式				
II 成果指標 (アウトカム)	延べ委員出席者数(人)	40			17
	算定式				
	算定式				
III 効率指標 (事業コスト)	委員会一日一人あたりに要する経費(円)	34,400			14,400
	算定式				
	算定式				

評価の項目	評価の結果	説明
⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明(担当課記入欄)
<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄)
<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

令和4年度 森林環境税活用事業事業評価シート（1）

（当初・中間・実績）

担当課・係名	森づくり推進課
担当者	古賀 郁美
内線	4571

R4-18

① 事業名	・細目事業名：林業大学校研修事業費 ・細々目事業名：短期課程研修事業費 ・当該事業名：林業大学校（短期課程）研修業務等委託料
大区分	県民の皆さんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
小区分	県民の主体的な活動

③ 主な事業内容	作業安全研修の開催
----------	-----------

④	現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景）	事業開始年度	平成17年度
	ボランティア団体の中には、搬出間伐を行うところもあり、また、国の森林・山村多面的機能発揮対策交付金を活用する活動組織も増えている。経験の浅い方が森林で作業する機会も増え、参加者の安全を確保するため、安全研修を充実させる必要がある。		
⑤	目的とねらい（成果）	森林保全ボランティア活動により森林整備を行う方を対象に、伐木作業等や車両系林業機械等の操作にかかる安全衛生に関する知識や技術の向上を図ることによって、現場の事故防止につなげることを目的とする。	
	対象（誰、何を対象とするのか）	県民（森林保全ボランティア）	
⑥	搬出間伐		

事業費の推移	H30(決算額)	R1(決算額)	R2(決算額)	R3(決算額)	R4(予算額)	
② 総事業費（千円）	576	562	562	568	620	
財源内訳	森林環境税	491	562	562	568	620
	一般財源	85	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0

⑦	<p>事業内容（手段）</p> <p>伐木等の作業安全研修にかかる講習を委託により実施 （委託先：（公財）高知県山村林業振興基金）</p> <p>1. 作業安全研修 (1) 初級 ・チェーンソー特別教育（ボランティア） 回数：1回（3日間） 定員：10人 日程：12月17日～18日、24日 (2) 中級 ・小型車両系建設機械（整地等）運転特別教育（ボランティア） 回数：1回（2日間） 定員：15人 日程：（学科）2月4日、（実技）2月5日 ・玉掛け技能講習（ボランティア） 回数：1回（3日間） 定員：10人 日程：（学科）1月21日～22日、（実技）1月28日 ・小型移動式クレーン運転技能講習（ボランティア） 回数：1回（3日間） 定員：10人 日程：（学科）1月7～8日（実技）1月14日</p>
---	---

令和4年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

(当初・中間・実績)

担当課・係名	森づくり推進課
担当者	古賀 郁美
内線	4571

R4-18

指標の種類	指標名/算定式	R4目標値	R4中間値	R4実績値	R3実績
⑧ I 活動指標 (アウトプット)	作業安全研修 (回)	4			4
	算定式 初級、中級	初級1回 中級3回			初級1回 中級3回
	算定式				
II 成果指標 (アウトカム)	受講者数 (人)	45			28
	算定式 初級、中級	初級10人 中級35人			初級4人 中級24人
	算定式				
III 効率指標 (事業コスト)	当事業に参加した県民一人当たり に要する経費 (円)	13,778			20,256
	算定式 $620,000円 \div 45人 =$				
	算定式				

評価の項目	評価の結果	説明
⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等 は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 成果 (意図した成果は上 がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
III 効率性 (コスト面からみた 効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明 (担当課記入欄)
⑩ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	各講習の定員に関しては、厚生労働省令等の最大定員で設定。

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等 (委員記入欄)
⑪ <input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

令和4年度 森林環境税活用事業事業評価シート（1） (当初・中間・実績)

担当課・係名	木材産業振興課 需要拡大
担当者	小原 卓也
内線	4593

R4-19

① 事業名	・細目事業名：高知県需要拡大対策事業費 ・細々目事業名：木の香るまちづくり推進事業費 ・当該事業名：木の香るまちづくり推進事業
大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
小区分	木材利用

③ 主な事業内容	県内の公共的施設、学校施設及び屋外景観施設等への県産材を活用した木製品の導入や施設の整備、乳幼児への木製玩具等の配布に対して支援
----------	--

④	<p>現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景） 事業開始年度 平成20年度</p> <p>【背景】 本県の豊富な森林資源の有効活用に向けては、木材の利用を促進し需要を拡大することが重要であり、県民や次世代を担う子供達に対して、木との触れ合いや木の良さを実感する機会を幅広く提供することが必要である。</p> <p>【現況】 不特定多数の方が訪れる公共建築物の木質化及び施設内への木製品の導入や、幼稚園、小中学校、高等学校、大学校、専門学校等での木製の机、椅子、木のおもちゃ等の導入を支援し、また平成30年度から乳幼児に配布する木製玩具等の経費を補助する木育推進事業にも取り組み、多くの県民に対し木との触れ合いや木の良さを実感する機会を提供できるような取組を推進してきた。</p> <p>【課題】 これまで、幼稚園や学校、店舗等、様々な施設へ木質化、木製品の導入、木育の推進に取り組んできたが、より多くの事業体に本事業を活用いただくため、引き続きダイレクトメール等により本事業の周知を図る必要がある。</p>
⑤	<p>目的とねらい（成果）</p> <p>（目的） 木の良さをPRすることにより県産材の需要拡大を図り、本県の豊富な森林資源の活用につなげる。</p> <p>（ねらい） 県産材の利用が促進され需要を拡大することはもとより、木に触れる機会を創出することで、県民（乳幼児から大人まで）の木材利用に関する理解の醸成へとつなげる。</p>
⑥	<p>対象（誰、何を対象とするのか）</p> <p>次世代を担う子ども達及び一般県民等</p>

②	<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業費の推移</th> <th>H30(決算額)</th> <th>R1(決算額)</th> <th>R2(決算額)</th> <th>R3(決算額)</th> <th>R4(予算額)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総事業費（千円）</td> <td>34,277</td> <td>33,939</td> <td>44,510</td> <td>38,442</td> <td>45,286</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">財源内訳</td> <td>森林環境税</td> <td>34,277</td> <td>33,939</td> <td>44,510</td> <td>38,442</td> <td>45,286</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td>木育 510</td> <td colspan="2">※R2以降は木育も総事業費に含む</td> </tr> </tbody> </table>	事業費の推移	H30(決算額)	R1(決算額)	R2(決算額)	R3(決算額)	R4(予算額)	総事業費（千円）	34,277	33,939	44,510	38,442	45,286	財源内訳	森林環境税	34,277	33,939	44,510	38,442	45,286	一般財源						その他			木育 510	※R2以降は木育も総事業費に含む	
事業費の推移	H30(決算額)	R1(決算額)	R2(決算額)	R3(決算額)	R4(予算額)																											
総事業費（千円）	34,277	33,939	44,510	38,442	45,286																											
財源内訳	森林環境税	34,277	33,939	44,510	38,442	45,286																										
	一般財源																															
	その他			木育 510	※R2以降は木育も総事業費に含む																											

⑦	<p>事業内容（手段）</p> <p>①公共的施設整備 ・補助内容：木質内外装整備等 ・補助先：市町村、社会福祉法人、医療法人等 ・補助率：1/2以内（補助金額25千円以上、限度額 4,000千円）</p> <p>②学校関連環境整備 ・補助内容：学校等の木質化内外装整備及び木製の机、椅子、遊具などを導入 ・補助先：市町村、社会福祉法人、学校法人等 ・補助率：1/2以内（補助金額25千円以上、限度額4,000千円、 小・中学校の内装木質化については限度額1,000万円）</p> <p>③屋外景観施設等整備 ・補助内容：木製のバス待合所や休憩所、案内看板等の屋外景観施設整備 ・補助先：市町村、団体等 ・補助率：1/2以内（補助金額50千円以上、限度額4,000千円）</p> <p>④木育推進 ・補助内容：乳幼児（満4歳の誕生日を迎えるまで）に木製の玩具等を配布 ・補助先：市町村等 ・補助率：1/2以内（限度額一人当たり5,000円以内）</p>
---	---

令和4年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

(当初・中間・実績)

担当課・係名	木材産業振興課 需要拡大
担当者	小原 卓也
内線	4593

R4-19

指標の種類	指標名/算定式	R4目標値	R4中間値	R4実績値	R3実績
I 活動指標 (アウトプット)	補助金投入金額（千円）	(公共) 16,269 (学校) 19,317 (屋外) 7,761 (木育) 1,653 (事務費) 286			(公共) 9,838 (学校) 22,864 (屋外) 4,601 (木育) 947 (事務費) 192
	算定式				
		合計 45,286			合計 38,442
	算定式				
II 成果指標 (アウトカム)	施設利用者数、配布者数（人）	(公共) 101,770 (学校) 5,668 (屋外) 70,142 (木育) 228			(公共) 329,700 (学校) 6,053 (屋外) 31,750 (木育) 201
	算定式				
	整備箇所数（箇所）	(公共) 10 (学校) 40 (屋外) 41 (木育) 6			(公共) 5 (学校) 32 (屋外) 29 (木育) 5
	算定式				
III 効率指標 (事業コスト)	1人当たりPRコスト、配布コスト（円）	(公共) 160 (学校) 3,408 (屋外) 111 (木育) 7,250			(公共) 30 (学校) 3,777 (屋外) 145 (木育) 4,711
	算定式 補助金投入金額/施設利用者数、配布者数				
	1箇所当たり整備コスト（円）	(公共) 1,626,900 (学校) 482,925 (屋外) 189,292 (木育) 275,500			(公共) 1,967,600 (学校) 714,500 (屋外) 158,655 (木育) 189,400
	算定式 補助金投入金額/整備箇所数				

評価の項目	評価の結果	説明
I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明（担当課記入欄）
<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等（委員記入欄）
<input checked="" type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	